

一般質問を終えて ゆげの思い・・・

僕の政治信条は、ロバートケネディの言葉「現実をしっかりと見据えた、理想主義者でありたい。」というものです。

「こうであったら多くの市民が喜んでくれるだろう。」という理想を掲げ、現実的な人・もの・金の状況を考え、少しずつでも理想に近づけるように努力するということが、政治家の務めであると考えています。民主党政権が失敗したのは、出来ないことを出来ると言い、言わなかったことを実行しようとしたこと、そして出来なかったにもかかわらず、国民にしっかりと説明し、謝罪しなかったことであると思います。僕は実現可能性が無いことを、「あれもやります」「これもやります」というつもりはありません。ですが実現可能性が低くても、多くの方が望み、少しづ

つなら出来るのではないかという事は、全力で取り組んでいきます。

これから坂戸市の税収は減っていきます。今ですら市はなにもしないと思っている市民の方は多いと思いますが、今以上に出来なくなります。だから僕は今一番重点的に取り組む施策は、税収増が見込める世帯の転入促進であると考えているのです。財源さえあれば、十分ではないけれど市民サービスを維持・拡充することが出来るのですから。なかなか一議員では出来ることは限られているようですが、市民、先輩・同僚議員、市職員の力をお借りしながら、少しずつ坂戸市を変えていければと思います。

市民の皆様、何か御座いましたら遠慮なくご連絡くださいね!!



今回の一般質問までは、音声と議事録でしか内容を知ることが出来ませんが、次の9月議会から動画視聴が可能になりましたので、ぜひご覧ください!!
※紙面の都合上、質問を一部省略しました。
完全版は市のHPで!

ゆげ勇人 プロフィール

履
歴

1973年10月23日生
坂戸市清水町在住
坂戸あずま幼稚園卒園
坂戸市立千代田小学校卒業
坂戸市立千代田中学校卒業
埼玉県立朝霞西高等学校卒業
明治学院大学卒業
坂戸理容美容専修学校卒業
立教大学大学院修了

現
在

理美容室 経営 (7店舗)
学校法人 北埼玉学園 代表理事
グルノーブル美容専門学校 経営
坂戸市立千代田中学校 PTA 会長
第一住宅坂戸団地自治会 青年会長
予算決算常任委員会 委員
市民福祉常任委員会 委員
坂戸・鶴ヶ島消防組合議会 議員

市政 報告



議員初の一般質問！
ご報告します！

行けッ! 活けッ! ゆげッ!



ゆげ 勇人

はやと

ゆげ勇人事務所

ゆげ勇人

検索

住所 〒350-0214 埼玉県坂戸市千代田 1-4-17 FAX 049-283-0923

電話 049-283-0922 メール yugehayato@gmail.com

議員になって初めての6月議会において、一般質問を行いました。一議員持ち時間が60分ですので、今回は僕の重点政策のうち「転入・定住促進施策としての小中学校給食費完全無料化について」と「さかちバス・ワゴンについて」質問しました。

**働く世代減少による
税収減**
**行政サービスが
必要な高齢者
増加**
**予算がないので現在の
行政サービス持続困難**

こうなることは明白
そこで将来を見据え、他市町村からの転入を促し、税収増を図るべきであると考え質問しました。
※まだ議員経験が浅いので、現時点での私見を述べさせて頂いています。僕の気付いていない理由が多くあることも考えられますので、その点にご留意下さい。
※市の答弁で「検討する。」はまあまああなごの感触。「研究する。」はやらないという事らしい。

START!

Q 何か施策を始めるときの、数字的な根拠はどのようなものがあるのか？
また転入促進に使える予算はどの程度と考えるか？

A 市民に必要なものを精査し行っている。この施策にどの位の予算を費やして予算編成を行うというものではない。

Q 民間では何か事業を行うときは、それによる売上・利益の増減を十分検討しながら行う。行政は数字的な根拠はなく、国や県の方針や補助金の有無、市長の決断によって事業が始められているようである。精査し行うというが、どう精査しているのか疑問。

Q 給食費完全無料化が予算的に難しいならば、第2子まで無料にしたり、全生徒に一定額の給食費補助を行ったり、小中学校給食費補助を今後拡充していく考えはあるか？

A 今後財政状況を踏まえ、検討していく。

Q 予算の問題ならば、かけた予算分税収が増えれば良い。そこで転入者が一人増えると、どの程度の市民税が増えるのかを質問した。

Q 世代別の市税の納付額は？

20代	30代	40代	50代
7万円	11万円	13万円	15万円

Q 30歳の仕事を持つ方が転入してくると、年間11万円の税収増になる。もし家を購入している場合、生涯坂戸市に住み続ける可能性が高い。30歳から59歳まで税金を納め続けていたければ、総額390万円になる。100人転入で年間1100万円。30年で3億9000万円の税収増になる。これからますます市町村間の住民獲得競争は熾烈になる。すると小中学校給食費完全無料化を実行する自治体は年々増えてくると考えられる。例えば中学性までの医療費無料化は、10年前は画期的だったが、今は県内すべての自治体で実行している。近隣市町村がどんどん実行してくると、渋々ながら予算をねん出して実行するものだ。

Q 税収減が予想されているならば、今最も力を注ぐべきは他市町村からの働く世代の転入ではないか。将来にわたり税収が継続的に見込まれる世帯はどのような世帯と考えるか？

A 坂戸市に家を持ち、安定した職に就く世帯。最も長期的に税収を確保することの出来る世帯は、坂戸市に住み続ける可能性が高い子育て世帯であるということ。ターゲットが明白なので、この世帯に訴えかける政策を実行すれば良い。そこで以下質問した。

Q 小中学校の給食費完全無料化を実施している県内自治体は滑川町と小鹿野町しかない。転入促進施策として有効ではないか？

A 3億円上回る予算がかかるので不可能。

Q 3億円の財源は無いという事だが、いくらの予算なら可能なかと聞いても、いくら使えるというものでは無いという答え。僕はパラマキで言っているのではなく、税収増を図るための訴求力のある施策ではないかという考え。

Q 継続して税収を確保する意味で、転出する可能性の低い新規住宅購入者は大変重要なターゲットであると思う。固定資産税の減免等の施策実行は出来ないか？

A 効果が高いと思われる。検討する。

Q 比較的前向きな答弁の感触を得たので、引き続き注視していきたい。

質問を通し、あまり市外居住者に対する本市独自の施策を実行する気がないように思った。そこで、商品が平凡ならば営業力で売り込むしかないと考え、本市のシティプロモーション実行状況を質問した。

シティプロモーション(市の広報活動)について

まずは市外居住者の方に、坂戸市の存在を知ってもらわなければ転入は無い。そこで現在シティプロモーションはどんなことを行っているのか質問をした。

Q 現在行っているシティプロモーションは？

A 広報さかどの発行、HPの運用、「いいね さかど まち散歩マップ」の発行。

Q 広報さかど、「いいね さかど まち散歩マップ」は、市内のみ配布。市外居住者が見る可能性があるのはHPのみ。そこで以下質問した。

Q 現在のシティプロモーションの状況を考えると、広報業務と広聴業務を同一の課が行っている現状では限界があるのではないかと。やはり市の広報活動、すなわち市を売り込むための営業活動を専門的に行う課があってもいいと思う。営業部門を専門に扱う課を作るべきだと思うが、考えは？

A 作るつもりは無い。広報広聴課で引き続き行っていく。

Q 市外在住者が魅力的だと思える、独自の施策を実行することが予算的に難しいのであれば、あとはいかに営業するしかない。商品に力がなければ、せめて営業人員を確保し、汗を流すしかないのではないかと。

さかちバス・ワゴンについて
高齢化が進み、買い物や病院に行くことが難しい市民が増えている。さかちバス・ワゴンの利便性を向上させる必要があるのではないかと考え、以下の質問をした。

Q 買い物や病院に行く方が利用しやすいように、ルート変更をしてはどうか？

A 検討していく。

Q 民間バスが走っておらず、市内でも高齢化率の高い西坂戸エリアから、川角駅、西大家駅を循環するワゴンを増便してはどうか。

A 市民ニーズの把握に努める。

Q 運行距離の長い便を増便すると経費も高い。鶴ヶ島市はつるバス、つるワゴンを運行しているが、運行距離が短いため運行経費は坂戸の半分である。西坂戸→川角駅→西大家駅 ならば運行距離は短く、増便しやすいのではないかと考えた。現在バス・ワゴンともおよそ1時間から2時間に一本という運行状況である。利便性が低いからバスを利用しないのか、料金が安いのか、そもそもニーズが無いのか、現時点では正直判断がつかない。より多くの市民の皆様の声を聞いていこうと思う。

Q HPのアクセス数の多いページは？

- ①サンテ坂戸 ②家庭ごみ、資源物収集カレンダー
- ③市役所業務の取扱時間 ④入札結果 ⑤入札予定

Q どう考えても市内居住者からのアクセスしかないことが想定される。

Q 他市町村では動画配信や、フェイスブック、ツイッターなどを使って、市外居住者にアピールしているが、やってみてはどうか？

A 重要だと考えている。検討していく。

Q 市が行っているSNSはツイッターのみで、フォロワー数も近隣市町村の10分の1程度。現在シティプロモーション業務は、広報広聴課が担当している。文字通り広報業務と広聴業務の両方を行っており、人数も少ないので、継続的な情報発信や様々な媒体に対する働きかけは、仕事量として難しい面もあると思以下質問をした。

Q 現在の乗車率と市からの補助額は？

A 乗車率は約30%。補助額は毎年約6000万円。3分の2は空席・・・

Q 補助額6000万円=運賃収入(売上)-運行経費(人件費、ガソリン代等)=赤字
市民サービスの観点からは、便数を増やしたほうが良いが、便数を増やせばその分赤字も増える。税金からの補てんを減らすことを優先すると、料金を上げる、路線を縮小するという考えもある。僕は、なるべく利便性を維持、出来れば向上させながら赤字額を減らすことが出来ないか考えている。そこで以下質問をした。

Q 乗車率を向上させるために、往復乗車券を安く発行したり、1日乗り放題の乗車券を発行してはどうか？

A 検討する。

Q 現在片道大人200円、70歳以上100円の運賃。買い物や病院なら必ず往復するのだから、大人300円、70歳以上150円で往復乗車券を発行してはどうかと思う。

Q さかちワゴンは、降りる場所は自由である。乗る場所も道路状況を勘案して自由にはどうか？

A 今後一部エリアで試行的に実施することを含め研究していく。

Q 渋滞の多い幹線道路では難しいと思うが、エリアによっては安全に運行することは可能だと思う。